



四季折々のキャンパスの自然と、
そこに働く人々の知恵と志しが、
私にいつもエネルギーを与えてくれました。

感謝・御礼

教育人間科学部教授
谷口 隼



この3月末日をもって、定年退職を迎えるに当たり、新潟大学で働く教官・事務官・技官の皆様、また、かつて本学に勤務されていた教官・事務官・技官の方々、さらに本学生活協同組合の方々、また、本学に係わるお仕事でご縁のあった様々の職種の方々、あなた方、お一人お一人の温かいご支援のおかげで、私、充実した教育・研究生活に専念出来ましたこと、心より深く感謝・御礼申し上げます。四季折々のキャンパスの自然と、そこに働く人々の知恵と志が、私にいつもエネルギーを与えてくれました。先年、ある先生が新聞のエッセイでスターバト・マーテル（悲しみの聖母）の曲にふれておりました。大好きな曲の一つです。また、ある先生は「ほんのこべや」誌上で須賀敦子の書を推薦しておりました。これも愛読している作家です。また、ある先生は、南仏モンペリエでは、教会とモンペリエ大学医学部が渡り廊下で繋がっていることをご存知でした。私が、お会いしたことも無い方々と趣味や知識を共有できるそんな人材豊かな本学に定年まで、在職できましたこと、うれしく、また誇りに思っております。

本来ならお一人お一人をお訪ね致し、これまでのご支援の御礼を申し上げるところであります。本誌をかりまして、重ねて

感謝・御礼申し上げます。有り難うございました。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。お元気で、さようなら。

未踏の荒海への 航海に乗り出すに あたって

法学部教授
鷺見 一夫



私が、横浜市立大学から本学に転任してきてから11年半という歳月が、あっという間に過ぎ去った。その間、本学では、実に快適な研究・教育生活を送ることができた。その最大の理由は、法学部では学閥がないために、人間関係の煩わしさがなかったためである。

現在、不思議に定年を迎えたという実感が湧かない。これは、目下、政府開発援助（ODA）訴訟の第1号案件となったコトパンジャン・ダム訴訟において、インドネシア・スマトラ島の被害住民のために奔走しているためであろうか？

この裁判は、タイ、スリランカ、フィリピンなどの人々からも注目されている。今後は、この類いの訴訟でかけずり回ることになるのではないかとと思われる。その意味では、跡を振り返っている余裕はなく、これまでやり残したことによりやく着手できるようになったという心境である。

退官

平成15年度



本学では、実に快適な
研究・教育生活を送ることができた。

退官にあたり

医学部保健学科教授
金山 勝三



昭和56年(1981)4月、医療技術短期大学部診療放射線技術学科(放射線生物学担当)に赴任、以来23年間、新潟大学でお世話になりました。この3月、医学部保健学科第1期生と一緒に旭町キャンパスを去ることになりました。

この間、西大畑の公務員宿舎とキャンパスを往復する毎日でした。通勤途中、遠回りしてニセアカシアの花の香りが漂う西海岸公園を散歩したり、四季折々の花を愛でたり、小さな公園で大きな自然を満喫しました。水族館のペンギンたちに挨拶するのも楽しみでした。あるとき、「ケンケン」という甲高いキジの警戒音のする方にそっと近づくと、すぐ足元に白いネコが身を低くして「来るな」と言わんばかりの激しい形相でこちらを見上げていました。雛を狙っていたのでしょうか。折角のチャンスを邪魔され、今にも襲いかからんばかりのすごみでした。そっと後ずさりしてその場を離れました。自然はまさに感動の宝庫です。恵まれた自然環境のもと、本学で医療技術者教育に携わった幸せをかみしめています。

これからの目標は、「三かく運動」の実践です。「汗かく」、「恥かく」、「ものかく(書く)」といいます。体を動かして汗をかき、新しいことに挑戦して恥をかき、ものを書いて(ときには絵を描いて)、ボケ防止を心がけたいと思っています。

長い間、お世話になりました。新潟大学のご発展をお祈りいたします。

退官にあたって

工学部教授
愛田 一雄



1965年10月に会社員から転職して工学部に赴任してから、38年6ヶ月の勤務生活が終わります。新設された自動制御講座の助手の公募が学会誌に掲載されているのを見て、応募しました。面接試験のときに宿泊した長岡の旅館で食べた御飯の美味しさを、いまでも忘れることができません。

現在では、教員の採用はすべて公募により行い、よほどの業績がないかぎり採用されません。しかし、当時は地方大学への就職を希望する者が少なかったせいか、会社で自動制御を少し手がけていたとはいえ、業績零の身で運良く採用されました。そして、多くの人に迷惑を掛けながらも、なんとか勤め終えることができたことを大変感謝しております。

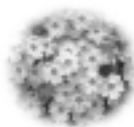
昨今、少子化により学生の質が落ちてきたと言われております。しかし、新潟大学の学生はまだ大丈夫です。講義では、他大学で見られるような「私語」は全くありません。そうかといって、講義内容をすべて理解している訳ではありませんが、全員が「やればできる能力」を持っていると思っております。

これまで多くの先生方が退官されるのを見てきましたが、そのとき必ず耳にしたことは、「先生は良いときにお辞めになる。」という言葉でした。今年は独法化直前でもあり、「最も良いときに」という言葉を背に受けて辞めることとなりますが、これからも新潟大学の発展を祈り続けるつもりであります。

長い間、本当に有り難うございました。



講義では、他大学で見られるような「私語」は全くありません。全員が「やればできる能力」を持っていると思っております。



体を動かして汗をかき、新しいことに挑戦して恥をかき、ものを書いて(ときには絵を描いて)、ボケ防止を心がけたいと思っています。